

■今月のメッセンジャー

小林 光信 (こばやし みつのぶ)

栃木県・真岡カルバリの丘チャペル牧師



私の幼少期時代（今から40年以上前）、スポ根アニメの代表といえば「巨人の星」でした。飛雄馬の父（一徹）は、頑固一徹で飛雄馬を厳しく育てていましたが、目に焼き付いている名場面は、父発明の大リーグボール養成ギブスを飛雄馬に取り付け、スプリングの負荷を利用して筋肉を鍛えさせていたシーンです。現代では立派な虐待であると思いますが、しかし、見方を変えれば父の愛情が込められた「特別仕様品」であつたのかも……？ そして飛雄馬は、それをキシキシいわせながらボールを投げて特訓する。そんな姿をテレビで放映してもOKな時代でした。

しかし、現代ほど「ど根性精神」がはやらない時代は、ないのではないのでしょうか。現代は、親が子離れできず、子も親離れができない、そんな過剰すぎる甘えた関係性の時代と言えると思います。（逆に、放任する無関心の関係性もバランスを欠いた過剰なのだと思います。）

以前、私と同年代の方が、息子の担任教師になつてくださったことがありましたが、その先生が言っておられました。「最近の若い先生は……」

つまり、世代間のギャップは、キリスト教会の世界だけではなく社会全体に言えることなのだと思います。

確かに、時代と共にさまざまなことが進化して利便性が良くなりました。一家に一台のテレビ、一人一台のテレビ、一家に一台のパソコン、一人一台のパソコン、そして一人一台の携帯電話など。それに伴って瞬時に情報を手に入れられるようになり、SNS・オンラインによる仕事・働き方改革など、時代は大きく進化しながら変化しつづけるのが、現代の特徴なのだと思います。

変わらない聖書の福音

しかし、どんなに時代が変化しても絶対に変わらないものがあります。永遠の書物である「聖書」です。聖書を読んでみますと、そこには「福音（グッドニュース）」がちりばめられています。福音は「恵み」であり、救いは「行いではなく信仰」だけが必要とされています。しかし「福音には神様の義が啓示されている」とも書いてあります。

聖書を土台とした人間教育

「私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。なぜなら、福音のうちには神の義が啓示されていて、その義は、信仰に始まり信仰に進ませるからです。『義人は信仰によって生きる。』と書いてあるとおりです。」（ローマ1・16～17）

神様の御子であられたイエス・キリストの身代わりの十字架は、私たち人間の罪を背負われた命懸けの「愛」の行為です。しかし、父なる神様にとっての十字架は、神様ご自身の「義」を表すために、何があっても罪の刑罰を執行しなければならなかった、まさに正義を貫く処刑台でした。つまり一ミリも手抜きをしない厳格な神様の「義」の行為が、イエス・キリストの十字架の死（死んで罪の刑罰を受けられた）に、明確に啓示されているのです。

罪に対する神様の怒りの矛先が向けられたイエス・キリストにとっては、理不尽な扱いであり、罪を犯さなかった神の御子としては、耐え難い苦

痛と苦悩であったはずですが。しかし、イエス・キリストは最後の最後まで（完了したと宣言するまで）、十字架から降りてこなかったのです。そこには霊的な力と共に、暴力や痛みや屈辱に耐え抜く精神力も必要とされたはずですが。人類史上、イエス・キリストほど精神力の強い方はおられなかったのではないのでしょうか。この「イエス・キリストの愛に基づく神様の義」によって、人類は信じる信仰だけで「罪が赦されて救われること」が可能となるのです。

忍耐力と精神力

旧約聖書にも新約聖書にも貫いている一つのメッセージ、それは「忍耐」であると思います。例えばアブラハムは、約束の子イサクが与えられるまでに25年もの間、待たなければなりませんでした。新約聖書の書簡を書いたパウロも「忍耐」を語っています。

「またキリストによって、いま私たちの立っているこの恵みに信仰によって導き入れられ

私たちは、神の栄光を望んで大いに喜んで
います。そればかりではなく、患難さえも喜
んでいます。それは、患難が忍耐を生み出し、
忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品
性が希望を生み出すと知っているからです。」

(ローマ5・2～4)

忍耐力とは精神力と深い関係があります。例え
ば、ある若い伝道者が、先輩牧師にこんなお願い
をしたそうです。「先生、忍耐力がつくようにお
祈りしてください！」そこで先輩牧師は「主よ、
この若者が忍耐力を身に着けるために、忍耐する
ことを学ぶことができますように！」と祈ると、
若い伝道者が文句を言いました。「先生、忍耐す
ることを学びたいのではなく、忍耐力が欲しいの
です！」すると先輩牧師が諭すように言いました。
「あんな、忍耐することを学ばずして忍耐力を身
に着けることはできないぞ！」その通りではない
でしょうか。忍耐力とは、忍耐することを精神（ハ
ート）で学ぶプロセスをスキップして、お手軽に
得ることは絶対にできません。

私の体験

私は学生時代の10年間、陸上部に所属して10
メートルを走り続けました。走って天国まで行
く信仰のランナーになりたいという夢と志が与え
られ、ひたすら走り続けました。古い昔の体育会
系ですから、質より量という時代、横っ腹が痛く
ても休ませてもらえずに走らなければならない時
代、そんな時に必要なものはたった一つ、「気合
と根性」でした。しかし、そのようにしていつの
間にか「精神力」が鍛えられてきました。

また、開拓伝道に出ってから15年以上、病気の治
療のため、週に3回のペースで近所の病院に通院
し続け、一度も休まずに皆勤賞で打ち続けた注射
の数は2500本。「神様、なぜ病気なのですか？」
そんな問い掛けを持ちながらも、そのようにして
いつの間にか「忍耐力」を身に着けることができ
ました。そしてそれが、間違いなく開拓伝道に大
きく役立ってきたのです。もし、私に精神力も忍
耐力も無ければ、とつくの昔に開拓伝道を逃げ出
していたと断言できます！（もちろん背後の祈り

聖書を土台とした人間教育

に支えられました！)

聖書学校時代、諸先生方が言っておられたこと、それは「神様は器を造られる」ということでした。確かに神様は、どんなに時代が変わっても神様の働きに間に合う「器」を造っておられるのです。その土台となるのが「聖書」であり、神様は、霊的な教育と共に心も体もトレーニングして下さるのです。そして、共に生きてくださるイエス・キリストこそ最高のトレーナーなのです！

献身と献身力

牧師になることを「献身」と言います。自分の身をささげることを表していて、それはある意味、神様の御前に一度限りする行為かもしれません。しかし、献身したならば、献身し続ける献身力が必要になります。つまり献身力とは、献身を持続させる力であり、そこには間違いなく忍耐力が伴った精神力も必要になります。もし、それらが必要なのだとしたら、献身は長続きせず、むしろすぐ諦めてしまうのではないのでしょうか。

「諦め癖・逃げ癖」それらは実に厄介なもので

あり、身に着けない方が良い悪癖です。十字架から降りることは簡単です。いつでも誰でもできることです。でも知ってほしいです。イエス・キリストは、私のために、あなたのために、最後まで十字架から降りてこなかったことを！

聖書は、精神を養い、豊かな人間力や人間性身に着けるためにも有意義な書物です。もちろん信仰の世界は、恵みの世界であって根性論で成り立つわけではありませんが、豊かな人格者の所には、魅力を感じて相手の方から近づいてくるのではないのでしょうか！ かつて宮沢賢治が、クリスチャンであった斎藤宗次郎氏をモデルにして書き上げた有名な詩「雨にも負けず」の中で語っているように。「そういう者に私はなりたいたい。」と！

日常生活の中に、非日常的な悲惨な出来事、非現実的な非道な出来事が、当然のように起こっている時代、神様の言葉である聖書を読んでいたただくことをお勧めいたします。そこに必ず救いがあり、平安な心で生きる豊かな人生が約束されているからです。祝福がありますように！

☞